

第12回タウンミーティングの意見交換内容について

- 日 時：平成27年1月20日（火）午後7時～8時40分
- 場 所：清水公民館ホール
- 参加者：熊本市教育委員会（崎元委員長、森委員、田口委員、泉委員、岡教育長）、
市内在住者及び勤務者（31名）

No	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
1	・日本人としての誇りについて 日本人としての誇りについて、子どもへ、誇りある日本人としての自覚を持たせるために、どのような教育方針を各校へ指示、指導されているのか。しているのであれば、現在の進捗はどのようになっているのか。	子どもたちに、自分たちが住んでる郷土や日本について誇りを持ってもらうということは非常に大事なことだと思っている。これは抽象的ではなく、学校の具体的な授業や活動の中で身につけていくというようにする必要がある。 例えば、小学校の1、2年は、まだ自分の生活のエリアが狭いので、まず、学校近辺を歩いて、自分の住んでる地区等のことをよく知るといことを行う。4年生くらいになると、郷土についての勉強をし、郷土への理解を深めてもらう。また、熊本市には熊本城があるが、市内の各学校が、さまざまな時間を利用して熊本城に行き、熊本城の歴史を学んでいる。それ以外にも東区の沼山津に横井小楠記念館というのがあるが、横井小楠について、地元の小中学校で独自に勉強したり、記念館の行事に参加したりもしている。このような具体的な取組で、熊本というのは本当に素晴らしいまちだと、自分たちの郷土として誇れるような教育を実施している。＜教育委員＞		指導課
2	・国歌斉唱、国旗掲揚について 昨今、行事の際に行われる国歌斉唱、国旗掲揚については、教師の参加を本人の自由意思に任せるという学校もあると聞くが、教育委員会では、学校に対してどのような指導をされているのか。日本国の国歌斉唱他は自由意思に任せるというようなことは、あってはならないと考える。	国旗掲揚及び国歌斉唱は、学習指導要領の中で示されており、本市においては、入学式・卒業式等すべての学校で実施されている。行事における国旗掲揚及び国歌斉唱は、授業の一環であることから、自由意思に任せるということはない。＜委員長＞		指導課
3	・運動場の芝生化について 再来年度、高平台小学校が50周年を迎えることから、記念事業について学校や地域を交えて話し合いをしてきた。その中で、記念事業のひとつとして、第一グラウンドに芝生を引きたいという案がまとまっている。子どもたちの運動能力の向上やけがの防止、地域の方々とのコミュニケーションツールにもなりうるなど、様々なメリットがある。また、子どもたちにも手入れを手伝ってもらうことで、子どもたち自身の誇りにもなるのではないかと考えている。高平台小学校はグラウンドが2面あり、授業にも支障が出ない。経費と維持管理のことが課題で挙がるが、この点は芝生化に成功している事例を視察に行き、意見交換も行った。さらに、これまで多くの芝生化を手がけてこられた先生を鳥取からお招きし、お話を聞き、アドバイスを頂く予定である。しかし、芝生化を考えている第1グラウンドが、水はけが悪いことは大きな課題である。できれば来年度中に暗渠管の整備の許可を頂きたいとも考えている。まずは芝生化に向け、教育委員会にアドバイスやサポートをお願いしたいと思っている。	芝生化については、やはり経費の面と維持管理というのが大きな課題だと思う。市内では運動場そのものを芝生化したところはなく、その周辺や中庭等を芝生化しているところでも小学校で18校、中学校で6校とそう多くはない。芝刈りの回数も年2、3回から12回と学校によってまちまちである。また、その実施者の多くが先生方で、それがまた大変だというのが現在の学校の状況である。通常の学校では運動場で子どもたちが常に活動していると、芝生が育つ暇がなく、芝生がはげることが心配するが、この点高平台小学校は、幸い運動場が2面あり、うち1面を主に運動部活動等で使用して、芝生化した運動場を芝生にダメージを与えない使い方をすれば可能ではないかとも思う。＜委員長＞		施設課・健康教育課

No	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
4	(つづき) 資金面については、宇土の走潟小学校で、スポーツ振興くじ助成を活用して、芝生化を行ったという事例がある。このような助成制度等も含めて、また勉強をし、モデル校のような形になれば良いと思う。鹿児島県の池田小学校では、昭和47年から、砂埃対策として地域で芝生を植える取組をはじめ、今では地域のシンボルになっている。熊本でも、ラグビーのワールドカップの招致があっているが、例えばそういうときに有名選手との交流なども考えられるようになるのではないかととも思う。 また、芝生化が進んでいる鳥取では、年間の維持管理費を抑えることを念頭において実施されている。コストを抑えて、子どもたちの健康に繋げるということを意識している。 今指摘いただいた芝生が荒れるのではないかとという点は、人数と面積との関係は非常に良いということで確認している。また詳しく勉強して、ご報告したいと思う。 ・学校給食について	地域と学校が、将来を見据え、しっかりと協議した結果として、そういった方向性で進むということであれば、教育委員会としても協議できると思う。ただ、先ほどあった暗渠については、多大な費用を要する。芝生化に向けて、様々な方法論を含めて協議を行うことは可能だと考える。＜事務局＞		施設課・健康教育課
5	学校給食の中で、どのくらい遺伝子組み換えの原料や人工甘味料、化学調味料というものが使われているかというのが非常に気になっている。ほとんど輸入に頼っている大豆や菜種など、給食の中でそれがどのくらい含まれているのか。企業は安全というが、ある調査では、発がん性も指摘されていて、安全性が確立されているとはまだいえないと思うので、できれば学校給食ではそういうものは使わないようにしていただきたいと思っている。 また、人工甘味料や化学調味料等も食べないに越したことはないと思う。化学調味料等を無くして小魚や昆布等の粉末から出汁をとり、また、食べるときに何回以上噛むなどといった指導をしたことによって、子どもたちの健康状態が劇的に改善したという事例もある。「食の改善」に取り組めば、子どもの心身の健康につながるのではないかと期待する。どのくらい給食の中に遺伝子組み換え作物や化学調味料等が入っているのかということについて、実態調査と情報公開をしていただき、それをもとに、保護者と協議をするようなことをしていただければ、と思っている。 醤油や味噌などで、本来の製法ではないものも使われていた事例があったという話も聞いたことがあるが、もしそのような事例があった場合には、どこに相談すればよいのか。	市の学校給食における食材調達は、学校給食会で一括した調達を行っている。ここでは、地産地消を基本として、安全安心なものを調達している。そして青果物や肉、調味料等を調達するときには査定会を実施し、品質や産地等について確認している。その中で、遺伝子組み換えの表示が義務付けられているものは確認し、基本的に使わないようにしている。 また、大豆を原材料とする味噌、醤油についても、製造の組合と協議し、可能な限り国内産、その中でも可能な限り熊本市のものを使用させていただきようをお願いしている。添加物についても同様に、できるだけ添加物のないような製品を使用するように調達の際に査定している。 食材の情報公開等については、学校給食会が調達の物資のリスト毎月ホームページに掲載しているので、ご確認いただければと思う。なお、物資購入の委員会等には保護者代表の方も入っていただいております。学校の教員、栄養士等も参加し、食の安全安心に関しては非常に意識の高い方々に査定をしていただいている。＜事務局＞ そういったことがあれば、教育委員会、学校給食会にお申し出いただければ、確認をし、業者、組合等に情報提供するとともに、どのような対応ができるかということを含め、協議をさせていただきます。		健康教育課

No	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
6	・小中学校へのエアコン設置について 新市長の公約の目玉で、小中学校の全ての教室に空調設備を整えるというものがあるが、来年度の予算に計上していただいたということを知り、大変ありがたく思っている。しかし、新聞報道では中学校の全教室に設置するとなっていた。確かに熊本市の財政から考えれば、一斉に全教室にということは叶わないということは十分承知しているが、なぜ体力的にも劣る小学校が先ではないのか。学校現場のことを熟知しておられる先生方から市に要望していただきたい。	様々な考え方があり、小学校から整備を開始して3、4年かけて実施すると、現在の中学生は空調のある環境を経験することはできないということもあり、中学校を先行するということを知っている。＜委員長＞ まず、現在報道に出ているのは予算要求を行ったということであり、予算が決定したものではないことをお断りする。今後の計画については、この事業が多大な経費を要すること、また現実的に工事の進め方もあるので、なかなか一度に行うことは難しいことから、現在まず中学校分の設計を行う予算要求を行っているところであり、計画的に整備を進めていかなければならないと思っている。＜教育長＞		施設課
7	・教職員の負担軽減について ある保護者の方が、保護者の経済的な格差が子どもの学力の格差につながっており、この状況が何とかならないかとおっしゃっていた。塾に行かなくても、学校で一生懸命勉強してれば、進学等も大丈夫という教育をしていたきたいとおっしゃられていて、もっともだと思った。以前は塾などなく、理解の遅い子どもには、放課後補習のようなことを個人的にやっていた。ところが今は先生方があまりに多忙すぎてそれがなかなかできない。先生方の仕事の実態やメンタル面の状況などを調査しようという動きがあるようだが、このようなことは本当に大事なことだと思う。熊本市でも、先生方の負担をできるだけ低減してあげて欲しい。	先生方と意見交換を行うスクールミーティングという場で、まさにそのようなお話を聞く。学校に対する調査等に関しては教育委員会もかなり自重してはいるが、現実的に学校現場の調査を実施しないとならない部分も多く、先生方に負担をかけているというのは否めないと思う。仕方がない部分もあると思うが、それによって、先生方が生徒、子どもたちと一緒に過ごす時間が少なくなるというのは本末転倒である。ご指摘のようなことを教育委員会としてもしっかりと考えていく。＜委員長＞		教育政策課
8	・学校図書館の充実について 「学校図書館の充実」について、今、以前と比べて予算が削られており、また、学校図書館司書業務補助員の身分改善も見込めそうにないという話を聞くが、具体的にはどうということをお考えになっているのか。	熊本市では、「子ども読書活動推進計画」を策定し、その計画内容に沿った事業を展開している。学校図書館の、蔵書の充実としては、学校図書標準冊数という学校図書館の図書整備を図る際の目標について、平成22年度末に市全体では達成することができた。今後は各学校で達成できるよう、目標から乖離のある学校に対して予算を重点配分するよう調整を行っている。また、学校図書館司書業務補助員については、平成12年度から全校に配置し、それを継続している。厳しい財政状況の中、現状のこの体制を維持できているという状況だということでご理解いただきたい。 また、新たな工夫として、学校図書館支援センターを立ち上げ、1週間に1回、各学校の図書館の蔵書を他の学校にも貸し出したり、市立図書館の蔵書を、学校に貸し出ししたりするような流通システムを整備し、リクエストに応える形で平成18年度以降実施している。その中では、物語図書をまとめてそろえ、「物語定期便」として1ヶ月ごとに学校に新しい本を運ぶ取組も進めている。本市としてはこのような取組で他都市と比べても若干進んだ学校図書館の充実、あるいは読書活動推進の取組を進めている。今後も、「子ども読書活動推進計画」では、推薦図書等を全学年で揃えていくような計画を進め、そのような本を様々な施設に配本できないかという点についても取組を進めたいと考えている。ボランティアの活用等、まだ不十分な点についても、図書館等で積極的に進めていきたいと考えている。＜事務局＞		教育政策課・指導課・学務課・市立図書館

№	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
9	(つづき) 昨年、「学校司書」という職名がやっと法律に載り、学校図書館に専属のスタッフがいることが望ましいと国も言っている。ここは是非市でも、文科省に予算をつけてもらえるよう働きかけていただきたいと思う。養護教諭等と同様に、学校に必要なスタッフとして職員定数の中に入れてもらえるような働きかけを何かやっていただけたら嬉しい。＜要望＞			教育政策課
10	・教育のあり方について 現役のところ土木の仕事をしてきたが、以前に比べると、責任を持った仕事をする者の年齢が10歳くらい上がっていると思う。そのくらいでないと仕事を任せられないと聞く。この原因を突き止めなければならないと思う。学力ばかりでもいいかと思う。以前は、農業をやっていた人はできる仕事の幅が広いと言っていた。体力もあり、自分で考え、全部自分で責任を持ってやっていたからだと思う。また、以前バスで、小中学生と一緒にあったとき、坪井川に流れる水の量の量り方を教えたことがある。そのとき、その子どもたちは、「やっぱり算数は勉強しないといけない」といったことを言っていた。勉強をしたら、それが将来どのように生きるのかということ、子どもなりに意識しているのではないかと思う。＜意見＞			-
11	・特別支援教育について 特別支援教育について、親にとっても、本人の将来にとっても、特別支援学級が良いのか、通常学級が良いのか、または、特別支援学校が良いのか、非常に悩まされると思う。このようなとき、どのような形で就学を決定しているのかお聞きしたい。 また、特別支援学級の中にはいろいろな子どもがいると思うが、自閉症から回復したような場合に、通常学級に編入するといったことが可能なのか、お聞きしたい。 支援学級に入るにあたり、必ず保護者が送迎できるという条件がついていると聞いたことがある。学校としては安全を確保したのかもしれないが、そのような条件だと、共働きの家庭は一方が仕事を辞めなくてはならない。そのような状況は問題があると思う。	就学については、まずは保護者、本人の思いをしっかりと聞くところから始まる。さまざまな相談機関があるので、そこでしっかりと話を聞き、子どもの実態をしっかりと捉え、就学について相談を進めている。その中で、特別支援学級、通常学級、または特別支援学校、どれが良いのかということについてお悩みであれば、「就学指導委員会」という専門の先生方のご意見を聞く機関があるので、そこで意見を聞き、それを基にして、また保護者、本人、関係者等と相談を進め、就学先を決定している。何よりも、保護者、本人の思いにしっかりと寄り添って相談を進めているところである。 また、途中で、支援学級や通常の学級に移行することができるかということについても、保護者、本人の思いをしっかりと受け止めて、途中でも可能だということまで話を進めている。＜事務局＞ 基本的には子どもの状況による。安全面をしっかりと確保する上で、一人で登校するのが難しい子どもであれば、いくらかの練習期間、誰かに一緒に登下校していただくということもあるかもしれないが、必ずしも保護者の方が登下校に付き添うことを無理強いすることはない。それは学校や保護者としっかりとご相談をした上でということになるかと思うが、もしそういった点でお困りのことがあれば、ご相談いただきたい。＜事務局＞		総合支援課

No	質問・提案・要望等	回 答	補 足	担当課
12	・運動部活動について 運動部活動が社会体育に移行すると聞いたが、社会体育に変わったときのメリット、デメリットについて教えていただきたい。	県が社会体育への移行を検討しているということは聞いているが、市に関しては、まだ本格的な議論をしていない。ただ、先生方が多忙であるなど、さまざまな問題があるので、いずれかの時点で検討することになるかもしれない。 県外のケースも種々見ているが、考え方によってその対応は様々である。熊本市は今まで、運動部活動を教育の一環であるという考え方でやってきているので、先生方に大変負担はかけているが、そこに教育的効果を期待しているというのが現状である。社会体育とは、それを社会の中の、スポーツクラブなどに渡してしまうというので、学校の負担等は軽減されるが、経済的な格差等が生じてくる可能性もあり、色々と課題もあるので、慎重に考えないといけないと思っている。＜委員長＞ 熊本市としての方向性は、現在部会を作り、学校の意見を取りまとめているところである。また、運動部活動に加入している子どもの保護者を対象としてアンケート調査を行い、子どもたちのスポーツの環境のあり方ということについてご意見を頂いている。併せて、教職員にもアンケートを実施しているところである。これらを踏まえて、今後の方向性のたたき台をお示しできればと思っている。 そして来年度以降、地域の方や保護者の方達と協議しながら、熊本市としての運動部活動の方向性を決めていきたいと現段階で考えている。 社会体育活動をしている団体の一つとして、「総合型地域スポーツクラブ」があり、地域の方々が主体となって組織され、スポーツに親しみたい方が世代を超えて活動しておられる。運動部活動は、学校教育活動の一環として、子どもたちの健康の増進、体力の向上という点で、あるいは活動を通じて社会性を身に付けるという点も含めて非常に意義があると考えている。いずれにしても運動部活動をどうしていくかということはしっかり考えていかなければならないと考えている。＜事務局＞ もうひとつ問題なのは、社会体育には、地域的にも、種目の面でも現在の運動部活動を引き継ぐだけの十分に受け皿がないところだと思う。運動部活動の教育としての意義も含めて、社会体育への移行については慎重な議論が必要だと思う。＜委員長＞		健康教育課
14	体育館の水漏れがあっている。体育館は災害時の避難場所にもなっているので、早急な対応をお願いしたい。＜要望＞			施設課
15	最近、小学校高学年の誘拐等のニュースもよく見る。地域の見回りやボランティア活動での対応等も限界があると思う。そこで、教育委員会主導で、子どもたちに護身術を教える機会を作っていただけないか。子どもの体格とか年齢に応じてできることは変わるので、小学校低学年のうちからそういった意識を持って、定期的に護身術っていうのを教えていただく機会を教育の一環として実施していただけないか。	子どもたちの登下校中に不審者が出た場合の対応については、基本的には逃げる、あるいは大声で叫ぶなど、助けを求める方が望ましいと考えている。現在、小学校の1年生には企業のご協力を頂いて、防犯ブザーを配布している。また、子どもが逃げ込める場所として、「子どもひなんの家」を地域の方々のご協力を頂いて通学路の中に確保させていただいている。また、日ごろの安全パトロール等で顔馴染みになっている地域の方々に助けを求めたという事例も上がっており、このように地域の方々に守られる体制を学校と教育委員会と保護者の皆様と構築していきたいと考えている。＜事務局＞		健康教育課